

令和7年11月6日

京都経済情勢報告

(令和7年10月判断)

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回 (7年7月判断)	今回 (7年10月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 7年10月判断は、前回7年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回 (7年7月判断)	今回 (7年10月判断)	前回 比較
個人消費	回復しつつある	回復に向けたテンポが緩やかになっている	↓
生産活動	緩やかに持ち直している	持ち直している	↑
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
観光	回復している	回復している	→
設備投資	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、前年を下回っている。百貨店は、免税売上げの回復に向けた動きが鈍い中、国内売上げが低調であることから、前年を下回っている。スーパーは、物価高の影響により節約志向がみられるものの、販売価格が上昇していることなどから、前年並みとなっている。

コンビニエンスストア販売は、京都市内を中心とした観光需要などから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通乗用車の需要が減少したことなどから、前年を下回っている。

家電販売は、販売台数は減少しているものの、販売価格が上昇していることなどから、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、インバウンド需要が好調であることなどから、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、猛暑の影響により夏物商品が好調であったものの、前年の防災用品特需の反動減がみられたことなどから、前年並みとなっている。

これらのことから、個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっている。

- 足下では為替の影響により免税売上げが戻りつつあるが、購入される商品は単価の低い化粧品などが中心であるため、回復の動きは鈍い。また、国内売上げについては、物価高の影響により地元客が戻ってきておらず、低調。（百貨店）
- 物価高による節約志向が引き続きみられる中、歴史的な猛暑の影響により午後の来店客数が大幅に減少したこともあり、買上げ点数は減少したものの、販売価格の上昇により、売上げは横ばいとなっている。（スーパー）
- 京都市内では訪日客を中心とした混雑がみられるも、9月後半まで猛暑が続いたことにより、昼夜の来店客数が減少するなど厳しい状況であったが、客単価の上昇により、売上げは好調。（コンビニエンスストア）
- カーシェア拡大による若年層の自動車離れが目立ち始めているほか、車種別でみると、大型車から小型車に需要が移行しつつある。なお、足下の受注台数は前年と比較すると増加している。（自動車販売）
- 販売価格の上昇により、売上げは好調。商品別でみると、猛暑の影響で例年よりも長い期間、夏物家電の売行きが良かった。（家電量販店）
- 免税売上げは花見の季節をピークに高い水準で横ばいに推移しており、引き続き好調。（ドラッグストア）
- 猛暑の影響により夏物商品が好調であったものの、8月は、南海トラフ地震臨時情報の影響で備蓄・防災用品の需要が拡大した前年の反動がみられた。（ホームセンター）

■ 生産活動 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、業務用機械などが低下しているものの、輸送機械、生産用機械などが上昇している。また、企業からは、生成 AI 向けの半導体関連製品の需要が増加しているとの声や、人手不足感が高まる中で省力化・自動化に向けた製品が好調との声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は持ち直している。

- 世界的に生成 AI 向けのデータセンター需要が拡大していることから、半導体関連製品が好調。また、国内企業において人手不足感が高まっていることから、省力化に向けた投資需要が堅調。（生産用機械）
- 中国国内での半導体事業拡大に向けた AI 関連の設備投資需要の増加を背景に、半導体製造装置関連の製品が引き続き好調。（電気機械）
- 一部自動車メーカーの認証不正問題による影響が解消されたため、自動車関連部品の生産量が国内向けで増加。（輸送機械）
- 生成 AI 関連市場が好調であることから、中国における新規サーバー設置や更新などの需要が高く、国内外ともに電子材料向けの製品が好調。（化学）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、概ね横ばいで推移していることなどから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 技術職や IT・DX 人材が慢性的に不足していることから、中途採用の募集をかけているが、充足しないため、職員の定着率向上を目的とした社内表彰制度を導入した。(生産用機械)
- 正規職員・非正規職員ともに必要最低限の人員は充足しているが、感染症の流行などにより複数人が同時期に不在となると、経営にも影響が生じ得る状況。(小売)
- コロナ禍でサービス業は不安定な職種とのイメージがついてしまい、ホテルや調理師関連の専門学校へ進学する者が減少したことから、ホテル業界はあらゆる職種で人手が足りておらず、人材獲得競争が激化している。(宿泊)
- 建設業界の担い手不足が進んでおり、人手不足を解消するためには DX 化・省人化が重要であることから、現場管理システムの導入や測量でドローンを活用するなど、積極的に取り組んでいる。(建設)

■ 観 光 「回復している」

平均客室単価の上昇傾向に一服感がみられるものの、外国人観光客の増加傾向が続き、客室稼働率が高水準で推移するなど、引き続き需要が旺盛であることなどから、観光は回復している。

- 7 月以降は猛暑の影響により客足が鈍くなる時期であるため、客室単価を下げて集客したことから、客室稼働率は 8 割強となっており、好調。(宿泊)
- 人流が増加する花見シーズンと同程度の客足を維持するなど、前年比でみてもインバウンド客を中心に増加している。訪問客の 8 割以上が外国人であることから、店舗別でみると飲食店が賑わっている。(商店街振興組合)

■ 設 備 投 資 「7 年度は前年度を上回る見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7 年 7～9 月期

製造業では、生産用機械、情報通信機械など、ほぼ全ての業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、宿泊・飲食サービスなどが前年度を下回っているものの、不動産、金融・保険などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「7 年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7 年 7～9 月期

製造業では、化学などが増益となっているものの、情報通信機械、輸送用機械などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。

非製造業では、宿泊・飲食サービスなどが増益となっているものの、不動産、医療・教育などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設

新設住宅着工戸数（後方 3 か月平均）でみると、前年を上回っている。

■ 公 共 事 業

前払金保証請負金額累計でみると、前年を上回っている。

■ 企 業 倒 産

倒産件数は、前年を上回っている。

■ 企業の景況感

法人企業景気予測調査（7 年 7～9 月期調査）の景況判断 B S I でみると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業、中堅企業は「上昇」超、中小企業は「下降」超となっている。先行きについては、全産業で「上昇」超に転じる見通しとなっている。